



みゆきレター



変化に対応する力を

学長 坪井 始

新型コロナウイルス感染症の流行は、私たちの生活に大きな変化をもたらしています。未知のウイルスであるが故に対策は困難を極め、本来なら何年もかかる対策を短期間で行おうと世界中で努力しています。社会も、私たちも速やかな対応を要求されています。

国全体が変化していく様子を見たことがあります。国際会議出席のため、私が初めてハンガリーを訪れたのは、1991年の夏でした。1989年にベルリンの壁が崩壊し、ハンガリーは社会主義から自由主義へ社会のシステムが変わっていました。平原の中にある国際空港を降り、首都ブダペストに向かうと、街は質素で落ち着いた雰囲気でした。

この国際会議をきっかけに、ブダペスト工科大学の先生や科学アカデミーの材料学研究所の研究者たちとの共同研究が始まりました。2010年頃まで、十数回ブダペストを訪れましたが、その間に街は近

代化していきました。ハンガリーは、2007年にEUに加盟しましたが、そのために経済発展が必要で、物価がものすごい勢いで上がっていきました。私の手許にある地下鉄・バスの1週間チケットをみると、1999年には日本円で約630円でしたが、2008年のものは約1600円になっています。

2000年に建国1000年を迎え、イベントが行われていましたが、この頃から日本では考えられないような大規模な大学の統廃合が行われ、大学の教員の移動もあつたそうです。その時、200年以上の歴史があるブダペスト工科大学も、経済大学と統合されブダペスト工科・経済大学になりました。

最後にブダペストを訪れたのは2014年ですが、歴史とモダンなたたずまいが共存する活気溢れる街になっていました。訪問者である私が感じた変化は表面的なものだと思いますが、ハンガリーの人たちに

とつては激動の時期だったに違いありません。

このように、社会のシステムが変わったり、新型コロナウイルス感染症の流行のようにも予測不可能な変化を強いられたりすることもあります。私たちは、このような変化に直面しても対応できる力、対応力を付けておく必要があります。



健康スポーツ科学科 健スポ初年次教育



健康スポーツ科学科の初年次教育である「基礎演習」では、大学生として必要な基礎力を身につけるとともに、協調性やコミュニケーション能力を磨き、目標達成に向けた課題発見力を高める一環として、レポート作成・プレゼンテーション指導、スポーツテスト、自然体験などを行っています。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止にともない、Zoomなどオンラインコミュニケーションツールを活用しての講義も行ってきました。

Webシステムの使い方など様々な面でサポートしてくれています。「基礎演習」の講義においても、ファシリテーターとして意見を引き出したり、促したりしながら上手く進行してくれるので、1年生も慣れないオンライン授業でも、リアクションをとったり、意見交換がしっかりされています。また、オンライン授業では普段以上のコミュニケーションが必要で、目から見える情報が少ない分、話し手は相手に伝わるようにするためにどうすればいいのかわかり、聞き手側も話し手がより意見を言いやすい雰囲気にするにはどうすればいいのかわかり、試行錯誤しながら取り組んでいました。

今後学生たちは、授業や部活動など様々な場面で、課題の解決に向けて仲間と積極的にコミュニケーションを図りながら協力し合うことが求められるでしょう。そうした時に「基礎演習」で学んだことを活かして欲しいと思います。

助教 石井 智紋

遠隔授業中の状況・講義の工夫や学生の声



4月からの休校や遠隔授業期間中は、学生は実家に帰ったり、自宅で過ごしたり様々な場所で講義を受けました。最初はネット環境が整っているかどうか、また遠隔授業では、お互いの顔が見えない為、講義に参加できていないのかどうか心配でした。大学ポータルシステムや学修支援システムを使用して学生のログイン状況を確認しながら進め、だんだん学生も教員もお互いに慣れてきました。

遠隔授業での学生の反応は、「最初はWi-Fi環境をとこのえるところから始まった」「プリンターがなくて困った」「わからないことがあるとき、すぐに聞けなくて困ったが、先生に直接メールしたり、電話したりして解決できた」「動画は何度も見直して、わからない箇所を確認できてよかった」「日に講義が沢山ある時には、レポートが多くて大変だった」「日中パソコンを見ていて、目が疲れた」などでした。また、実家に帰った学生は「教科書も実家へ持って帰っていたので、困らなかった」「家事をしなくてよかったので、勉強する時間が増えた」などの声もありました。

看護学科

4年次の養護実習、教育実習や公衆衛生看護学実習も時期が遅くなり、また、新型コロナウイルス感染症の影響で秋から実習する場面もあります。2年次3年次の臨地実習は、これからの感染拡大状況により、国や県の方針、大学や実習病院の方針により、遠隔授業で学ばないといけない場合も想定して検討しています。また、基礎ゼミⅡ、看護研究Ⅰ・Ⅱや就職活動指導などはテレビ会議システムを使っています。やはり顔が見えて、コミュニケーションがとりやすく、好評です。

教授 安達 直子

こども学科 遠隔授業を実践して



新型コロナウイルス感染症の影響のため遠隔授業となり、学生だけでなく全国の大学教員が大いに困惑しました。遠隔授業は学生と教員の双方に未知の負担を強いることになりましたが、新たな学びの好機となったことも確かです。

遠隔授業には、同時双方向型とオンデマンド型の2つがあります。後者には、学修資料配信型、スライド資料配信型、録画授業配信型(①スライドに音声や顔を録画、②無学生授業を録画)等が含まれます。私の場合、少人数での討論が多い講義は同時双方向型を、詳細な内容を学修していく講義は録画授業配信型(スライド録音)を実践しました。そして、学生の理解度を把握するために、毎回の講義で課題を課しました。この録画授業配信型は最も実施難易度が高いと言われていますが、スライド録音でさえ、そうでした。例えば、1時間の講義の録音だけでも、もっと簡潔でわかりやすい説明はできないかとやり直しているうちに4〜5時間かかってしまいました。しかし、学生の学修効果が高まったことは収穫でした。

さて、学生は遠隔授業をどう捉えているのでしょうか。受講生にアンケートを実施したところ、無学生授業の録画の講義を受講した経験者はほとんどおらず、今回実施した中で、最も学修効果が高かった方法として、ほぼ全員がスライド録音の講義を挙げました。その理由は、「音声の説明があるので理解しやすく、一時停止や巻き戻して、1週間の間に自分のペースで何度も視聴できる」です。反面、「わからない点をすぐに質問できない」を短所として挙げていました。

教員が遠隔授業の教材作成に苦労した分だけ、学生は学修という形で期待に届いてくれており、「遠隔授業でもこれだけできる」という手応えが両者の率直な感想と言えるでしょう。「遠隔授業を通して、自主的に勉強するようになった」という学生の声も多く、遠隔授業の長所と短所を見極め、今回の経験をより良い授業と学びの創造に活かしていきたいと思っています。

教授 田辺 尚子

Topics 学科トピックス

経営学科

はじめての遠隔授業



2020年5月8日、教員生活史上はじめての遠隔授業がはじまった。本来であればこの日は、講義も5回目を迎えているはずだった。しかし、将来人々の記憶に特筆される出来事である新型コロナウイルス感染症の脅威が、およそ一か月遅れでYouTubeやチャットの機能を使った変則的な授業形態をもたらした。どこが変則的かというところ、まず私の目の前にはパソコンのモニターがあるのみである。そして、受講生の表情や態度は見えない。普段なら、授業を聴いているのか、少し集中力が落ちてきているのか、教壇から瞥すれば分かる。その都度、話し方を変えてみたり問を置いてみたり時折注意することもできる。そうやって、オンラインバーバルなコミュニケーションを成立させ学生と一緒に講義を作り上げていく。

ところが、遠隔授業ではそれが出来ない。少なくとも、いつもと同じ形態の講義を遠隔で作りに上げることは、今に至るまでどうしても出来ない。それでもなお、教員にはコロナ禍による制約にもめげず、知恵と工夫をこらし少しでも良質な講義を提供する義務がある。そう信じて、授業の資料を総とりかえ、何度も録音を繰り返した。数時間をかけ、やっとのことでビデオ変換した資料が、データが重すぎてアップできないことも頻繁にあったが、かろうじて持ちこたえた。そうして、いつもと違う準備を終え定刻になると、自宅のパソコンの前に座り皆の出席を待つ。最後まで集中して講義を受けてくれると信じて……。

末筆ながら、新型コロナウイルス感染症の影響を受けられた全ての方々にお見舞い申し上げますと共に、皆さまの安寧の日が一日も早く訪れることを心よりお祈り申し上げます。

准教授 堀越 昌和

福祉学科

オンラインで新入生歓迎会



新入生は入学後に休校、そして遠隔授業開始となり、上級生と新入生の交流がまったくできない状況が続いていました。そんな状況で6月2日に、福祉学科介護福祉コース恒例の新入生歓迎会をオンラインで実施しました。これは、本コースの専門科目である「余暇生活支援法Ⅱ」の講義の取り組みです。

この講義を履修している2年生は、Zoomを使いながら準備を進めてきました。事前に1年生から自己紹介に必要な情報を聞き、そのことを生かしながら新入生歓迎のデジタル素材を作ってくれました。

当日は、Zoomでできるプログラムとして、自己紹介、イントロアクトクイズ、文字並べ替えクイズをみんなで楽しむことができました。イントロアクトクイズでは、先生たちも楽しめるように昭和50年代の曲も含めてくれました。文字並べ替えゲームは、Zoomのブレイクアウトルームを使い、小グループに分かれて話し合いをしました。

オンラインによる新入生歓迎会は、これまで誰もしたことのない取り組みでしたが、先輩たちの準備のおかげで大成功に終わりました。この取り組みは、介護福祉士に必要なレクリエーションの企画運営の技能を身につける講義で行われます。上級生たちはさらに新入生歓迎会の反省会も行い、今後の実務能力を養います。先輩の取り組みを見た後輩たちは、来年は迎え入れる立場として頑張ってくれと思っています。

准教授 藤井 宏明



オープンキャンパスについて

本学では、高校生や保護者の方に学内の施設見学や模擬授業、実習・演習を体験してもらうために、見学会および体験入学会を開催しています。本年度は、新型コロナウイルス感染

拡大防止の観点から、Webオープンキャンパスという形式でオープンキャンパスを開催しています。Webオープンキャンパスのコンテンツも充実してきました。学長挨拶、本学の概況、入試制度や施設案内の動画といった本学全体の特色を紹介するコンテンツに加え、学科紹介や模擬授業など、各学科が工夫を凝らして制作した学科独自のコンテンツもあります。これらのコンテンツは本学のWebオープンキャンパス特設ページで公開されています。

オープンキャンパスの開催日には、ビデオ会議アプリケーションZoomを活用したオンライン個別相談を実施しています。6月20日のオンライン個別相談では、入学者選抜制度から学科カリキュラム、奨学金制度にいたるまで、相談者のみなさんの質問に本学教職員がお答えしました。7月12日の体験入学会でもオンライン個別相談を実施しました。

本年度は入学者選抜制度が大きく変わります。新型コロナウイルス感染症も重なり、大学入試に対して不安を抱く受験生も多いと思います。本学の魅力や入学者選抜制度の変更点を高校生や保護者の方にわかりやすく伝えるために、新型コロナウイルス感染症の状況に対応しながら教職員が一丸となって新しい企画を立案し、今後もオープンキャンパスを開催していきます。本学のオープンキャンパスにご注目ください。

「Web学科紹介」



「Web授業体験」



「Web模擬講義」



News!

奨学支援給付金 について

本学では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため当面の間、対面授業を避け学生が自宅等で授業に取り組む遠隔授業を実施してきました。

遠隔授業の実施に係る修学環境の確保、整備等のために、全学生(休学者を除く)に対して返還の必要のない奨学支援給付金(学生1人あたり5万円)を支給いたしました。

News!

後援会よりマスク支給

6月1日に新型コロナウイルス感染症予防対策の一環として、福山平成大学後援会から、「マスク」が学生の皆さん全員に発送されました。

「マスク」は飛沫感染予防に有効とされており、6月15日(月)から開始された対面授業などで活用していただけるように、後援会の皆様が支給してくださりました。

後援会の皆様に心より御礼を申し上げます。

令和2年度 新型コロナウイルス感染症拡大防止 マナー向上キャンペーン実施

令和2年6月16日～6月17日に、「新型コロナウイルス感染症拡大防止マナー向上キャンペーン」を実施しました。

学生、教職員一人ひとりが、新型コロナウイルス感染拡大予防に伴い、3密(「密閉、密集、密接」にしない)手洗い等に配慮した行動マナーを順守して、感染拡大防止を図り、キャンパス環境を快適なものにすることを目的とした啓発活動です。

「新型コロナウイルス感染拡大防止マナー向上キャンペーンティッシュ」を学生に配付し、マナー向上の啓発に努め、学内の正門・西門・北門・東門・2・12号館付近での啓発活動を行いました。

作業開始前には、学生委員長、学生副委員長からキャンペーン開催にあたり、学友会、各学科の学生と教職員75名の協力について謝辞があり、「事故のないように注意して活動をお願いします」との挨拶がありました。



活動開始前の挨拶



新型コロナウイルス感染拡大防止
マナー向上キャンペーン活動参加者
学友会、各学科の学生、教職員



バス停前付近



事務局前付近



南門・第2体育館付近



7号館付近



2号館・北門付近



12号館・南門付近

保健管理センターより

新型コロナウイルス感染防止対策として ～マスク着用の影響～

ようやく大学に通学出来るようになりましたが、新型コロナウイルス感染症が流行する以前の生活にはまだ戻れませんね。マスクを着用し、至る所に消毒液が置かれ、教室では人と離れて座らなければなりません。

新型コロナウイルス感染防止のための対策はもちろんのこと、自己免疫力を高めることも大事です。菌やウイルスにさらされても罹患しない身体づくりです。十分な睡眠、適度な運動、バランスの良い食事、ストレスをためないなど基本的な生活が大事です。

大学生活ではマスクが必需品となりました。マスクをして呼吸すると鼻と口を覆われ苦しく感じるため、呼吸は浅くなり、口呼吸になりやすくなります。

口呼吸は身体に悪い影響を与えます。本来の呼吸は鼻呼吸です。鼻から吸った空気は異物(塵や埃、菌やウイルス)を除去され、加温・加湿し肺に入ります。口呼吸は外の空気がほとんどそのまま肺に入ります。そのため風邪をひきやすく免疫力が低下します。

また、口呼吸になると浅く速くなることで自律神経のバランスをみだしやすくなり、メンタル面にも影響してくるそうです。

ご自分の呼吸を観察してみてください。鼻で吸っているか、口で吸っているか、浅くなってはいませんか?時々深呼吸すると良いでしょう。人がいない所では、マスクを外して深呼吸することもお勧めします。

免疫力を高めて、ウイルスに負けない身体づくりをしましょう。

会話をするときは
マスクをつけましょう!



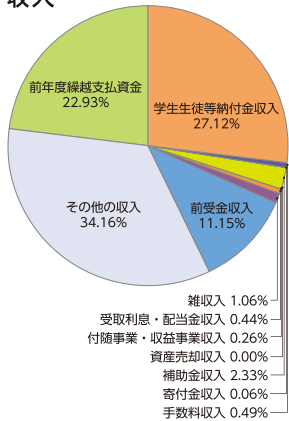
令和元年度 学校法人福山大学財務状況

資金収支計算書

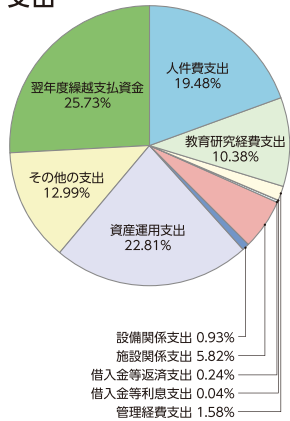
(平成31年4月1日～令和2年3月31日) (単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	5,995,056,206	人件費支出	3,810,030,454
手数料収入	108,329,560	教育研究経費支出	2,030,652,363
寄付金収入	13,273,381	管理経費支出	309,017,138
補助金収入	515,831,760	借入金等利息支出	7,480,665
資産売却収入	560,000	借入金等返済支出	47,760,000
付随事業・収益事業収入	57,633,000	施設関係支出	1,139,279,650
受取利息・配当金収入	96,632,959	設備関係支出	182,701,452
雑収入	233,204,850	資産運用支出	4,462,000,000
借入金等収入	0	その他の支出	2,540,013,201
前受金収入	2,464,522,797	資金支出調整勘定	△ 103,829,859
その他の収入	7,549,308,625		
資金収入調整勘定	△ 2,644,202,535		
前年度繰越支払資金	5,067,741,393	翌年度繰越支払資金	5,032,786,932
収入の部合計	19,457,891,996	支出の部合計	19,457,891,996

収入



支出



資金収支計算書

資金収支計算書は、企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書に近いもので、学校法人が教育研究その他の諸活動を行うことにより生ずるすべての資金収支の内容を示しています。学校法人の資金収支計算書では、前受金、未収入金、未払金、前払金を加えたもので、個々の収入金額、支出金額は必ずしも企業会計におけるキャッシュ・フローとなっていますが、別途「資金収入調整勘定」と「資金支出調整勘定」を設けて、これら前受金等を調整することになり、総額としてはキャッシュ・フローを示しています。

科目の説明

収入の部

学生生徒等納付金収入	授業料・入学金・実験実習料等の収入
手数料収入	入学検定料や各種証明書の発行手数料等の収入
寄付金収入	金銭及びその他の資産を寄贈者から贈与された収入
補助金収入	国または地方公共団体から交付される補助金収入
資産売却収入	帳簿残高のある固定資産等の売却による収入
付随事業・収益事業収入	補助活動、附属事業、受託事業および収益事業による収入
受取利息・配当金収入	預金、有価証券等の利息や配当金による収入
雑収入	上記以外の収入で学校法人の負債とならない収入
借入金等収入	返済期限が貸借対照日後1年を超えて到来する長期借入金と1年以内の短期借入金及び学校債の発行による収入
前受金収入	翌会計年度以後の諸活動に対応する収入を当該会計年度において資金収入したものの
その他の収入	上記以外の収入で、各種特定資産の取崩収入及び預り金等の収入
資金収入調整勘定	当年度の諸活動に対応する収入ですが、資金の収入が当年度中に行われず、前年度以前または翌年度以降となる項目を調整する勘定科目

支出の部

人件費支出	教職員人件費、役員報酬、退職金に係る支出
教育研究経費支出	教育研究活動に要する経費で、消耗品費、光熱水費、旅費交通費、奨学費、通信費、印刷製本費等の支出
管理経費支出	教育研究活動以外の経費で、管理運営、学生募集等に要する支出
借入金等利息支出	借入金及び学校債に係る利息支出
借入金等返済支出	借入金及び学校債に係る返済支出
施設関係支出	土地、建物、構築物等の固定資産の取得に係る支出
設備関係支出	機器備品、図書、車両等の取得に係る支出
資産運用支出	各種特定資産への繰入支出、有価証券の取得に係る支出
その他の支出	上記以外の支出で、前払金、仮払金等に係る支出
資金支出調整勘定	当年度の諸活動に対する支出であるが、実際の資金の支出が前年度以前にあったものまたは、翌年度以降になるもの

事業活動収支計算書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日) (単位：円)

科目	金額
教育活動収支	
事業活動収入の部	
学生生徒等納付金	5,995,056,206
手数料	108,329,560
寄付金	20,253,649
経常費等補助金	515,831,760
付随事業収入	57,633,000
雑収入	233,204,850
教育活動収入計	6,930,309,025
事業活動支出の部	
人件費	3,821,637,096
教育研究経費	2,866,327,623
管理経費	373,459,118
徴収不能額等	0
教育活動支出計	7,061,423,837
教育活動収支差額	△ 131,114,812
教育活動外収支	
事業活動収入の部	
受取利息・配当金	96,657,110
その他の教育活動外収入	0
教育活動外収入計	96,657,110
事業活動支出の部	
借入金等利息	7,480,665
その他の教育活動外支出	0
教育活動外支出計	7,480,665
教育活動外収支差額	89,176,445
経常収支差額	△ 41,938,367
特別収支	
事業活動収入の部	
資産売却差額	559,800
その他の特別収入	12,051,698
特別収入計	12,611,498
事業活動支出の部	
資産処分差額	2,668,480
その他の特別支出	7,292,160
特別支出計	9,960,640
特別収支差額	2,650,858
基本金組入前当年度収支差額	△ 39,287,509
基本金組入額合計	△ 2,911,006,300
当年度収支差額	△ 2,950,293,809
前年度繰越収支差額	6,743,158,152
基本金取崩額	0
翌年度繰越収支差額	3,792,864,343
(参考)	
事業活動収入計	7,039,577,633
事業活動支出計	7,078,865,142

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、毎会計年度の3つの活動(教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動)に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容を明らかにするとともに、基本金に組み入れる額を控除した会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動収入と事業活動支出の均衡の状態を明らかにするためのものです。

科目の説明

事業活動収入の部

学生生徒等納付金	授業料・入学金・実験実習料等の収入
手数料	入学検定料や各種証明書の発行手数料等の収入
寄付金	資金収支の寄付金収入に現物寄付を加えた額（施設設備に係る寄付は除く）
経常費等補助金	国や地方公共団体から交付される補助金収入（施設設備に係る補助金は除く）
付随事業収入	補助活動、附属事業、受託事業による収入
雑収入	上記以外の収入で学校法人の負債とならない収入
受取利息・配当金	預金、有価証券等の利息や配当金による収入
その他の教育活動外収入	収益事業等からの収入
資産売却差額	資産売却収入が当該資産の帳簿価額を超えた場合の超過額
その他の特別収入	施設設備に係る寄付金、補助金及び過年度修正額による収入

事業活動支出の部

人件費	教職員人件費、役員報酬、退職金に退職給与引当金繰入額を加えたものの
教育研究経費	教育研究活動に要する経費で、消耗品費、光熱水費、旅費交通費、奨学費、通信費、印刷製本費等の支出に減価償却額を加えたもの
管理経費	教育研究活動以外の経費で、管理運営、学生募集等に要する支出に減価償却額を加えたもの
徴収不能額等	前年度以前に計上した未収入金等で、当年度において回収不能と判断した額
借入金等利息	借入金及び学校債の利息に係る支出
その他の教育活動外支出	為替差損等に係る支出
資産処分差額	資産売却収入が当該資産の帳簿価額を下回った場合の差額及び資産を売却した場合の除却損
その他の特別支出	災害損失及び過年度修正額に係る支出

その他の項目

基本金組入前当年度収支差額	当年度における教育活動収支、教育活動外収支、特別収支の全ての収入と支出の差額
基本金組入額合計	第1号基本金から第4号基本金の当年度組入額
当年度収支差額	基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を控除した当年度の収支差額
前年度繰越収支差額	前年度までの累積収支差額
基本金取崩額	基本金を取り崩した場合の額
翌年度繰越収支差額	前年度繰越収支差額に当年度収支差額と基本金取崩額を加えた額で翌年度に繰り越す収支差額
事業活動収入計	当年度の事業活動収入の合計
事業活動支出計	当年度の事業活動支出の合計

貸借対照表		(令和2年3月31日)(単位：円)	
資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	59,488,396,452	固定負債	2,130,617,106
有形固定資産	28,311,846,040	長期借入金	311,550,000
土地	6,890,160,619	退職給与引当金	1,772,618,250
建物	12,975,246,426	長期未払金	46,448,856
構築物	614,472,720	流動負債	2,717,936,476
教育研究用機器備品	1,888,901,180	短期借入金	47,760,000
管理用機器備品	36,427,461	未払金	78,168,316
図書	4,813,048,977	前受金	2,464,522,797
車両	31,071,672	預り金	127,485,363
船舶	1,373,185	負債の部合計	4,848,553,582
建設仮勘定	1,061,143,800		
特定資産	31,140,024,716	純資産の部	
第2号基本金引当特定資産	5,700,000,000	科目	金額
退職給与引当特定資産	1,773,016,830	基本金	56,167,358,598
減価償却引当特定資産	15,678,644,945	第1号基本金	49,979,358,598
校舎建設等引当特定資産	3,575,757,976	第2号基本金	5,700,000,000
創設準備引当特定資産	4,412,604,965	第4号基本金	488,000,000
その他の固定資産	36,525,696	繰越収支差額	3,792,864,343
電話加入権	3,048,426	翌年度繰越収支差額	3,792,864,343
施設利用権	600	純資産の部合計	59,960,222,941
保証金	33,316,670		
敷金	160,000	負債及び純資産の部合計	64,808,776,523
流動資産	5,320,380,071		
現金預金	5,032,786,932		
未収入金	171,481,541		
有価証券	81,363,520		
前払金	34,277,078		
仮払金	471,000		
資産の部合計	64,808,776,523		

貸借対照表は、年度末における資産、負債、純資産(基本金、繰越収支差額)の状況を示すものです。資金収支計算書と事業活動収支計算書が単年度の収支を示すのに対して、貸借対照表はこれまでの財務状況の積み重ねを示しています。

資産の部	
固定資産	次の有形固定資産、特定資産、その他の固定資産の合計
有形固定資産	貸借対照表日後1年を超えて使用する有形の資産で、土地、建物、教育研究用機器備品、管理用機器備品、図書、車輛等
特定資産	基本金引当特定資産及び各種引当特定資産
その他の固定資産	電話加入権、施設利用権、有価証券等
流動資産	現金預金、未収入金、貯蔵品等
負債の部	
固定負債	長期借入金、退職給与引当金、長期未払金等
流動負債	短期借入金、未払金、前受金、預り金等
純資産の部	
基本金	学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために組み入れた金額で、第1号基本金から第4号基本金があります
第1号基本金	教育活動を行うために取得した固定資産の価額
第2号基本金	将来取得する固定資産の取得に充てる金銭及びその他の資産の額
第3号基本金	奨学金等の基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭及びその他の資産の額
第4号基本金	恒常的に保持すべき資金として別に文部科学大臣の定める額
繰越収支差額	累積の収支状況を示しており、事業活動収支計算書の翌年度繰越収支差額と一致します

財産目録		(令和2年3月31日)(単位：円)	
一 資産額			
1. 基本財産			34,011,846,040
土地	338,143 m ²		6,890,160,619
建物	149,918 m ²		12,975,246,426
構築物			614,472,720
教育研究用機器備品	5,293 点		1,888,901,180
管理用機器備品	167 点		36,427,461
図書	447,227 冊		4,813,048,977
車両	32 台		31,071,672
船舶	2 艇		1,373,185
建設仮勘定			1,061,143,800
第2号基本金引当特定資産			5,700,000,000
2. 運用財産			30,796,930,483
現金預金			5,032,786,932
退職給与引当特定資産			1,773,016,830
減価償却引当特定資産			15,678,644,945
校舎建設等引当特定資産			3,575,757,976
創設準備引当特定資産			4,412,604,965
電話加入権			3,048,426
施設利用権			600
保証金			33,316,670
敷金			160,000
未収入金			171,481,541
有価証券			81,363,520
前払金			34,277,078
仮払金			471,000
資産総額			64,808,776,523
二 負債額			
1. 固定負債			2,130,617,106
長期借入金	日本私立学校振興・共済事業団		311,550,000
退職給与引当金			1,772,618,250
長期未払金			46,448,856
2. 流動負債			2,717,936,476
短期借入金	日本私立学校振興・共済事業団		47,760,000
未払金			78,168,316
前受金			2,464,522,797
預り金			127,485,363
負債総額			4,848,553,582
正味財産(資産総額－負債総額)			59,960,222,941



令和3年度 入学者選抜日程

総合型選抜(一般)

試験種別	試験日	学部	出願期間	合格発表	手続締切
I 期	10月28日(水)	経営	10月 1日(木)～ 10月12日(月)	11月 2日(月)	11月11日(水)
II 期	11月26日(木)	福祉健康	11月 5日(木)～ 11月21日(土)	12月 3日(木)	12月15日(火)
●エントリーシート提出	I 期 9月 1日(火)～9月 7日(月)		II 期 9月30日(水)～10月6日(火)		
●面談結果通知	I 期 9月29日(火)		II 期 11月 4日(水)		

一般選抜

試験種別	試験日	学部	出願期間	合格発表	手続締切
公募推薦型選抜	A日程	11月17日(火)・18日(水)	全学部	11月 1日(日)～ 11月11日(水)	12月 1日(火)
	B日程	12月12日(土)	全学部	11月26日(木)～ 12月 8日(火)	12月16日(水)
一般選抜前期	A日程	1月31日(日)・2月 1日(月) 2月 2日(火)・2月 3日(水)	全学部	1月 5日(火)～ 1月25日(月)	2月10日(水)
	B日程	2月19日(金)	全学部	2月 4日(木)～ 2月15日(月)	2月25日(木)
一般選抜後期		3月 6日(土)	全学部	2月24日(水)～ 3月 2日(火)	3月10日(水)
大学入学共通テスト利用選抜	前期	個別学力試験は課さない	全学部	1月 5日(火)～ 1月25日(月)	2月10日(水)
	後期	個別学力試験は課さない	全学部	2月24日(水)～ 3月 2日(火)	3月10日(水)

※備考:大学入学共通テスト 1/16(土)・1/17(日)

2020年度 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金、科学研究費補助金)採択一覧

所属	職名	氏名	研究種目	研究内容	研究期間	交付金額
経営学部	准教授	堀越 昌和	若手研究	自然災害からの中小企業の復興プロセスと事業承継計画に関する研究	2019年～2021年	234万円
福祉健康学部	教授	岡部 真智子	基盤研究(C)	地域で連携して取り組む居住支援プログラムの実践的開発と検証	2020年～2024年	340万円
福祉健康学部	教授	杉本 浩章	基盤研究(C)	地域包括ケア時代の看取りと専門職間協働	2017年～2021年	340万円
看護学部	准教授	岡 和子	基盤研究(C)	高等学校(看護)教育実習における学生の自己評価表の開発に向けて	2019年～2021年	91万円

2020年度 科学研究費助成事業(研究成果公開促進費(学術図書))採択一覧

所属	職名	氏名	種目	補助金額
福祉健康学部	教授	三藤 恭弘	研究成果公開促進費(学術図書)	110万円



御幸五訓

- 一、真理を求め、道理の実践を志向する。
- 二、豊かな品性と魅力ある個性を伸ばす。
- 三、不屈の魂を養い、紐帯性を培う。
- 四、生命を尊重し、自然を畏敬する心情を育む。
- 五、誠実と倫を胸に刻み、夢の実現に挑む。

編集 福山平成大学広報委員会(学報作成部会)

発行 福山平成大学

発行日 2020年7月20日

福山平成大学

〒720-0001 広島県福山市御幸町上岩成正戸117-1

TEL 084-972-5001(代表) FAX 084-972-7771 <http://www.heisei-u.ac.jp/>